

(2) 供給側の動向

他方、供給側も国内市場の縮小の波を受けて作付面積も耕作農家数も減少している。耕作農家戸数上位5県は岩手県(1780戸、1257ha)、青森県(1202戸、1312ha)、福島県(1175戸、907ha)、熊本県(937戸、1666ha)宮崎県(800戸、1489ha)である。上位5県で全国に占める戸数は52%弱、作付面積で44%となる。全国で見ると一戸あたりの作付面積は1.3haで1985年の平均が0.6haであるから、作付面積は約2倍になっている。また専業農家の割合では葉たばこ耕作農家は46.3%、それと比較して一般農家は26.8%となる。世帯所得で農業所得が兼業所得を上回る所謂第1種兼業農家も含めると、葉たばこ耕作農家は85.4%、それと比較して一般農家は40.2%となる。それは、10a当たりの労働時間の比較から、専業率が高くなる理由がわかる。葉たばこの関しては184.9時間/10aであるが米では27時間/10aという圧倒的な時間差が存在する。また年齢別割合を比較すると一般農家の46.3%が70歳以上であるが、葉たばこ耕作農家は64%が50から69歳となっている。専業率が高く、農家の年齢層が比較的若いことから廃作に伴う何らかの対策が必要であることを示唆する。

葉タバコの廃作はJTの経営上の理由によっても、あるいは農家経営の社会的あり方からも必要とされている。しかし廃作の必要性と実効性は必ずしも歩を一にしているわけではない。廃作後どのような経営を行っているのか、どのような支援策を必要としているのか、直接質問し、葉たばこから他の作物への有利な転換が円滑に推移するための基礎資料作りが本調査論文の目的となる。

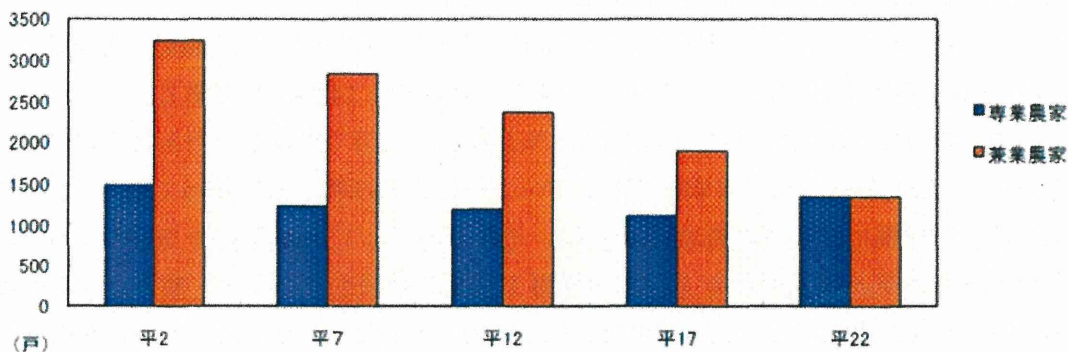
2. 宮崎県 A 市調査

(1) 調査概要

宮崎県 A 市(特定化することは本旨ではない)は、宮崎県南西部の都市で人口10万人を切る。宮崎県内では人口の順位で見て宮崎市、都城市、延岡市などに次いで10番目以内に入る。面積は600平方キロメートル弱で、宮崎県の7.3%をしめる。主な産業は農業(市内総生産の8.7%)、製造業(同6.6%)、建設業(同7.7%)、商業(同10.7%)、不動産業(同13.5%)、サービス業(同25.6%)、公務など政府サービス(同14.9%)となっている。

宮崎県の特徴でもあるが全国水準から見て農業生産の全産業に占める割合は比較的高い。また農家数は4300戸で、図2のように専業農家の割合が高いことも特徴である。

図3 専業農家と兼業農家の割合



資料：市政要覧より

2ha未満の農家が全体の72%で、耕地の割合は水田32.2%、畑59.2%、樹林地8.6%である。関東や中部、近畿の大消費地から遠いことのデメリットを克服できる付加価値の高い農業経営の実現が課題である。その点では、葉たばこ耕作は付加価値の高い部類に入っている。

この市の平成23年度葉たばこ契約農家（廃作、継続含めて）52戸に対して平成25年1月末に調査票を配布し約2週間で27戸から回答を得た。回答率は52%の高さである。

(2) 回答者の属性

葉たばこ耕作農家は図4に見られるように、比較的歴史が浅い農家が多いことに気づく。2代目が全体の67%位を占める。これは戦後、開拓地を新たに開墾して農家として独立した生計を立てることになった世帯の典型である。しかし、図5に見られるように後継者の有無については、後継者がいないが78%と高く、農業経営の経済的厳しさを裏付ける。大都市に近接しているわけではないから輸送費等に負荷がかかり「高付加価値作物」を選択的に耕作できるわけではない。そのため畜産などにウエイトを移す農家も多い。

図4 農家の属性

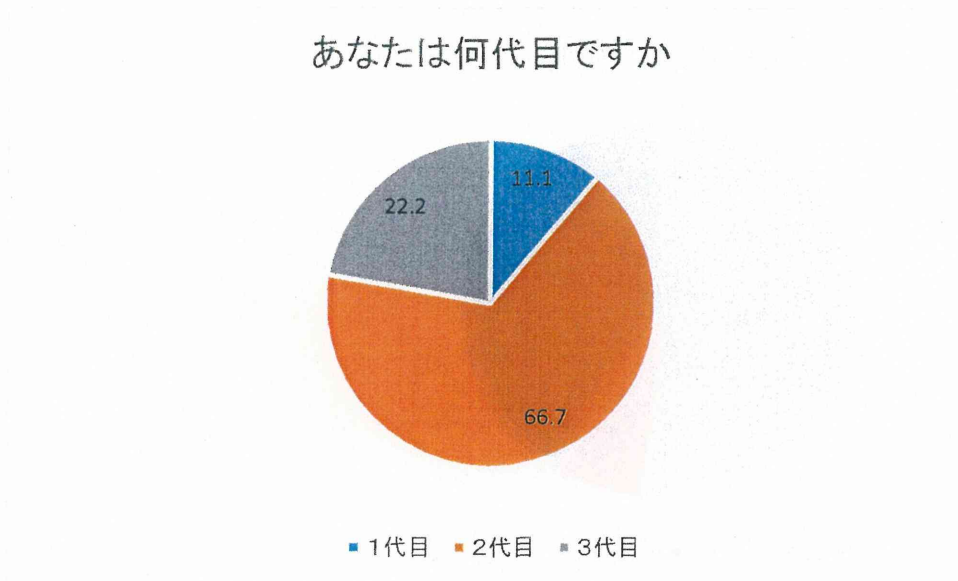
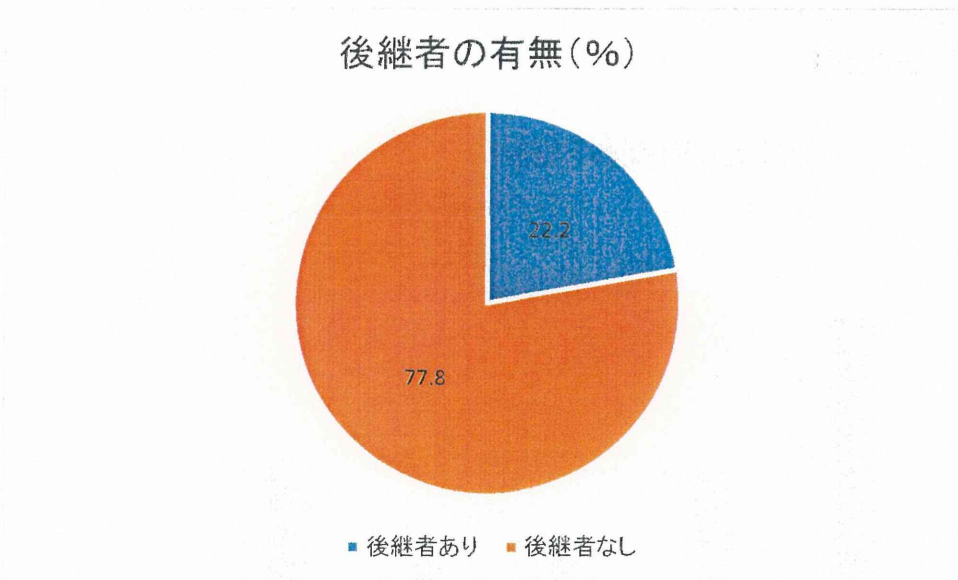


図5 後継者の有無

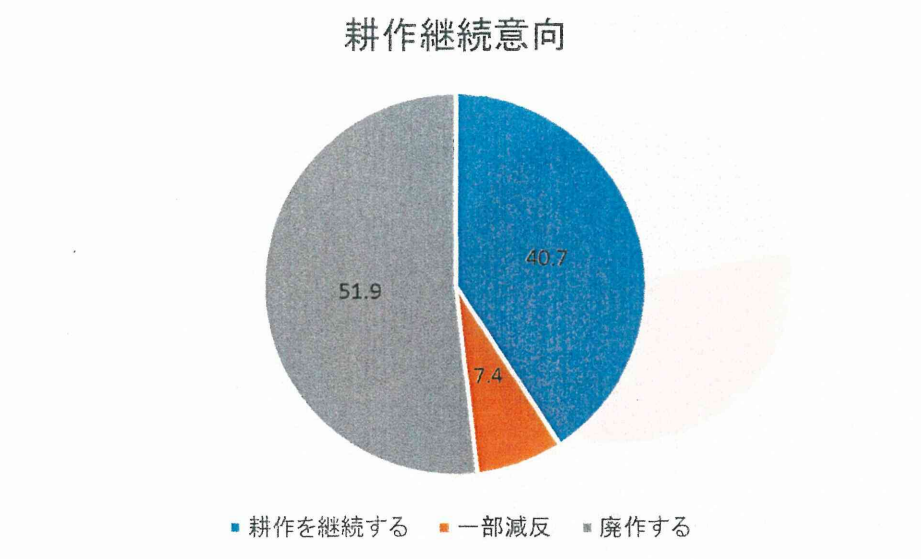


(3) 葉たばこ耕作継続意向

おそらく、比較的「高付加価値」な葉たばこ耕作による収入の確保が次第に困難になりつつあることを確信しつつあることも一因となるだろうし、転作に伴う耕作技術や収入に関する不確実性や戸別の将来設計にも依存している。

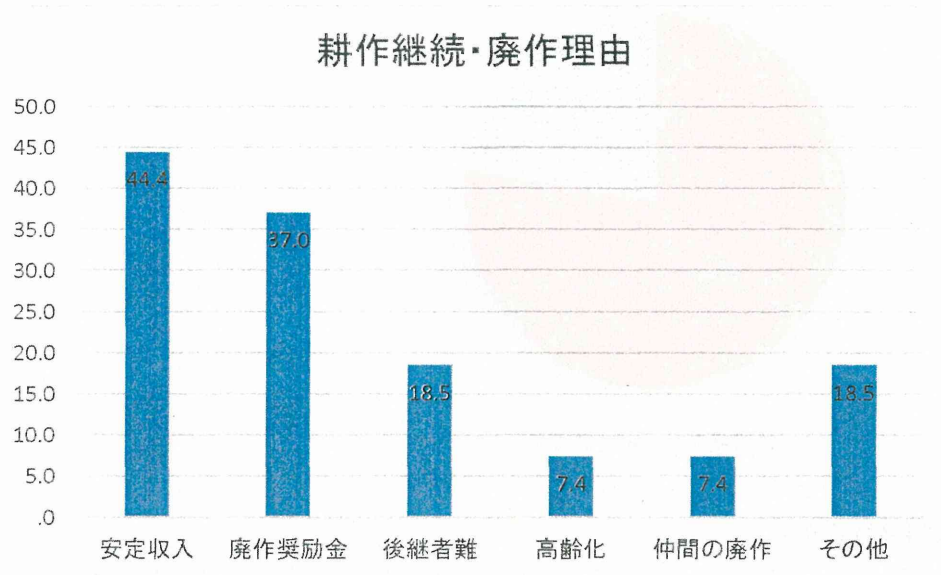
したがって、平成23年度契約農家のうち回答を寄せられた農家のうち、従来通り仕事を継続すると回答した割合は、図6のように40.7%、一部減反が7.4%で、過半数の回答者が廃作意向を示している。平成24年度の契約農家は23年度と比較して36.5%でしかない。従って回答を寄せてくださった農家の中では耕作継続意向のある農家の割合は高い。

図6 耕作継続意向



次に継続するか、廃作を選択するかを決定する要因を図7で見ると、安定収入と廃作奨励金とに多くの回答者が反応していることがわかる。

図7 耕作継続・廃作理由



耕作継続（一部減反も含む）農家と完全廃作農家の2群に農家を分割してクロス分析をすると、図8①-⑤から安定収入と廃作奨励金をどう評価するかで「耕作面積をコントロール」することができる。他の後継者難、高齢化は共通する課題である。仲間の廃止についてはかなり大きな誘引として働くのではと思ったが、統計的優位性で検討してもそれほどでもなかった。興味深いのは図8の②に見られるように、耕作継続農家にとって廃作奨励金は「誘引」としてはほとんど効果を持たないことがわかる。

図8① 耕作継続意向と安定収入

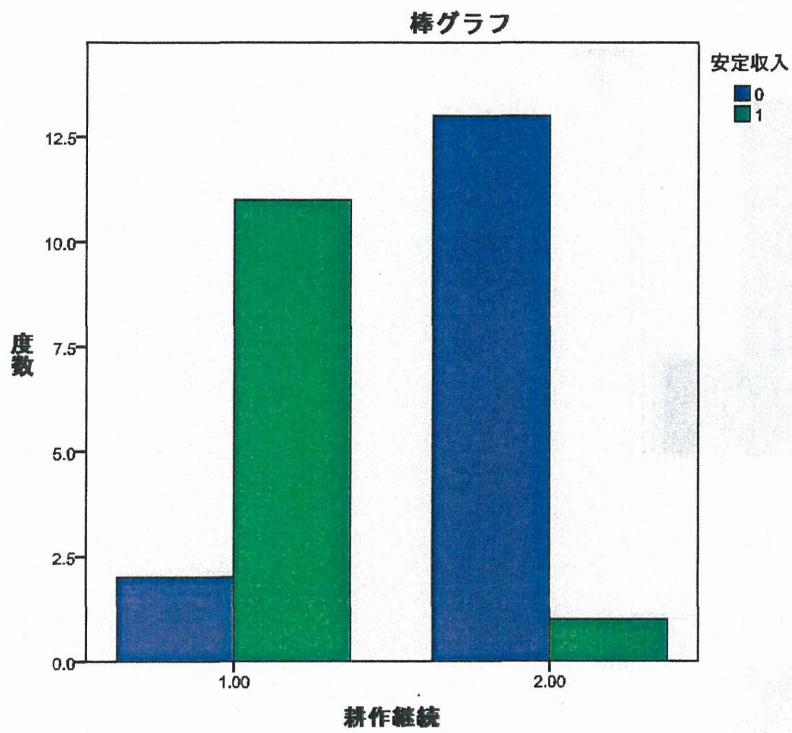


図8② 耕作継続意向と廃作奨励金

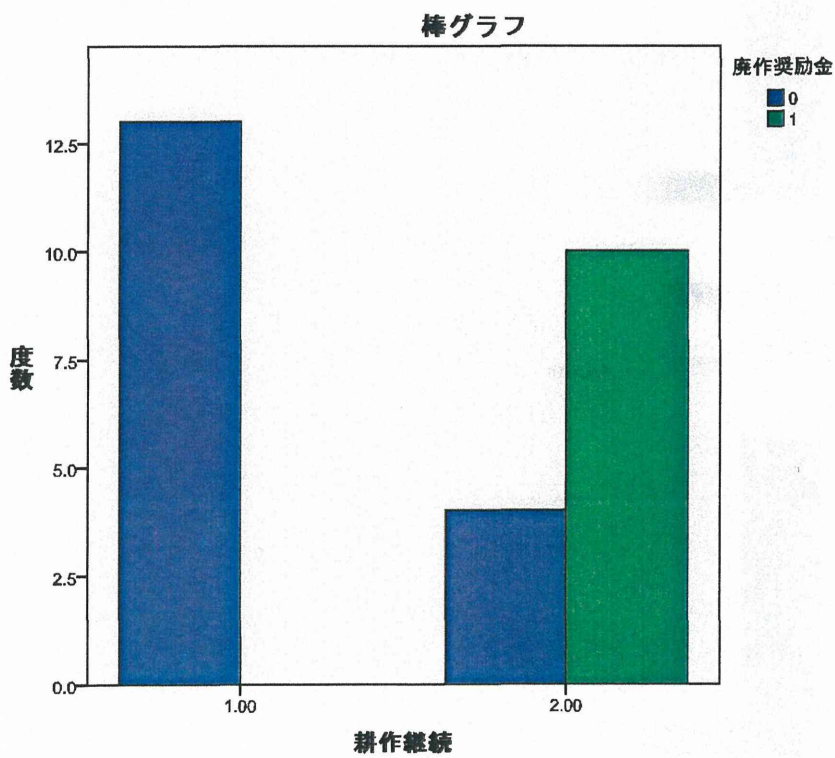


図 8 ③ 耕作継続意向と安定収入

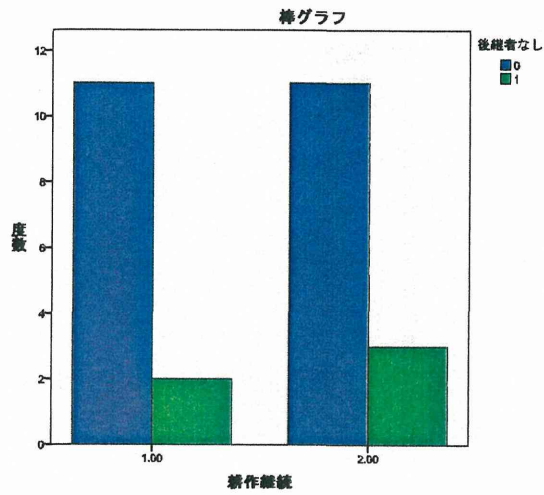


図 8 ④ 耕作継続意向と高齢化

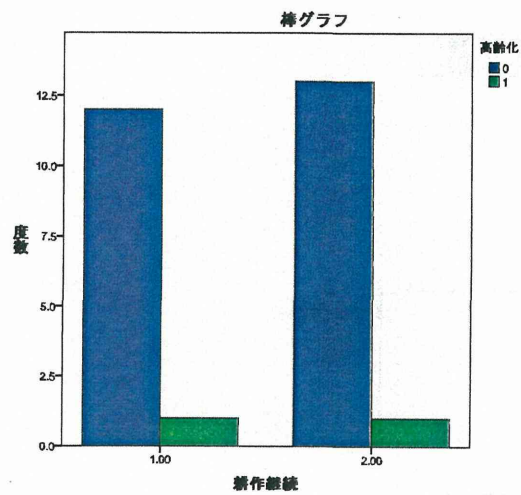
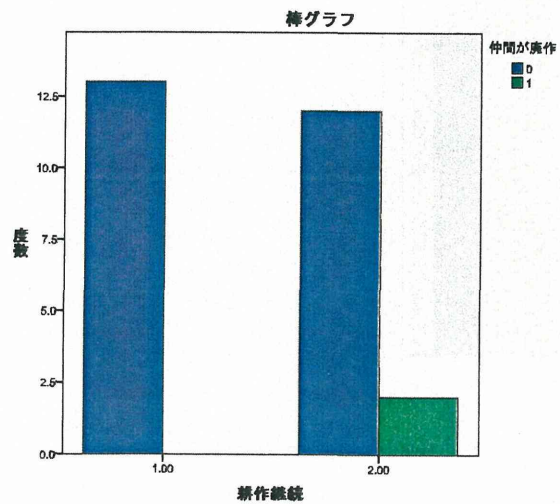


図 8 ⑤ 耕作継続意向と仲間の廃作



2つの項目が耕作継続意欲に対して持つ強度の大小を比較する。表2のように、ロジスティック回帰で安定収入と廃作奨励金のいずれが耕作継続か廃作の選択を左右するかを検討した。このモデル式で約89%の予測率で農家の選択を予測できる。さらに、安定収入が廃作奨励金よりも選択に強い影響を及ぼすことが暗示されている。

表2 ロジスティック回帰モデルによる耕作継続意向予測結果

モデル要約

ステップ	-2対数尤度	Cox-Snell R2乗	Nagelkerke R2乗
1	13.614 ^a	.586	.781

a. 最大反復回帰に達したため、反復回帰30で推定が打ち切られました。最終解を求められません。

分類テーブル^a

観測		予測			
		耕作継続		正解の割合	
		1.00	2.00		
ステップ1	耕作継続	1.00	11	2	84.6
		2.00	1	13	92.9
	全体のパーセント				88.9

a. 分類値は.500です

方程式中の変数

	B	標準誤差	Wald	自由度	有意確率	Exp(B)	EXP(B)の95%信頼区間	
							下限	上限
ステップ1 ^a								
廃作奨励金(1)	-30.797	1883120.134	.000	1	1.000	.000	.000	.
安定収入(1)	2.803	1.387	4.084	1	.043	16.500	1.088	250.160
定数	28.399	1883120.134	.000	1	1.000	2.156E12		

a. ステップ1: 投入された変数 廃作奨励金, 安定収入

そこで、安定収入のみを説明変数とした場合と廃作奨励金のみを説明変数にした場合でロジスティック回帰を行った。紙数の節約を考慮して分類テーブルのみを示すと以下のようになる。

まず、廃作奨励金については表3のように、予測制度が85.2%になる。耕作継続については100%の正解だが、廃作農家の場合は71.4%の予測率となる。

表3 廃作奨励金による予測結果

分類テーブル^a

観測		予測			
		耕作継続		正解の割合	
		1.00	2.00		
ステップ1	耕作継続	1.00	13	0	100.0
		2.00	4	10	71.4
	全体のパーセント				85.2

a. 分類値は.500です

つぎに安定収入の確保の予測率を見ると表4のように、2変数を説明変数にした場合と

同等の予測率となる。ということは、葉たばこの価格が最重要なコントロール変数になることがわかる。

表4 安定収入による予測結果

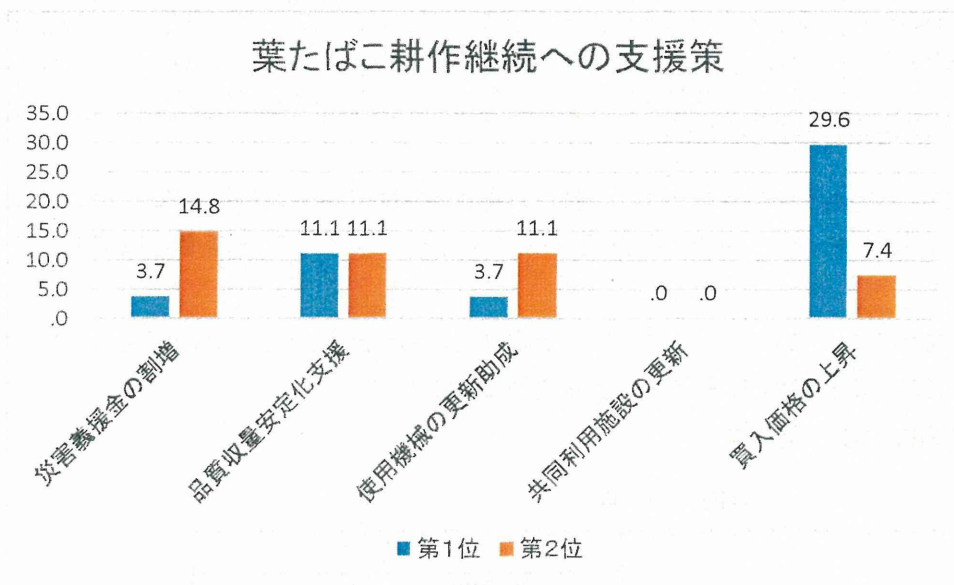
分類テーブル^a

観測			予測		
			耕作継続		正解の割合
			1.00	2.00	
ステップ1	耕作継続	1.00	11	2	84.6
		2.00	1	13	92.9
	全体のパーセント				88.9

a. 分類値は .500 です

それを裏付けるものが図9にあるように、継続のための支援策の内容である。第1位に他の項目を完全に凌駕するように「買入れ価格の上昇」である。しかし適正在庫を目標にするJTにとって、国際買入れ価格の3倍の開きを持って高水準にある国内葉タバコの買入れ価格上昇は飲めない要求であろう。品質収量安定化支援や使用機械の更新助成など第2順位の支援策へのシフトが耕作継続農家への支援として現実的なものとなるだろう。

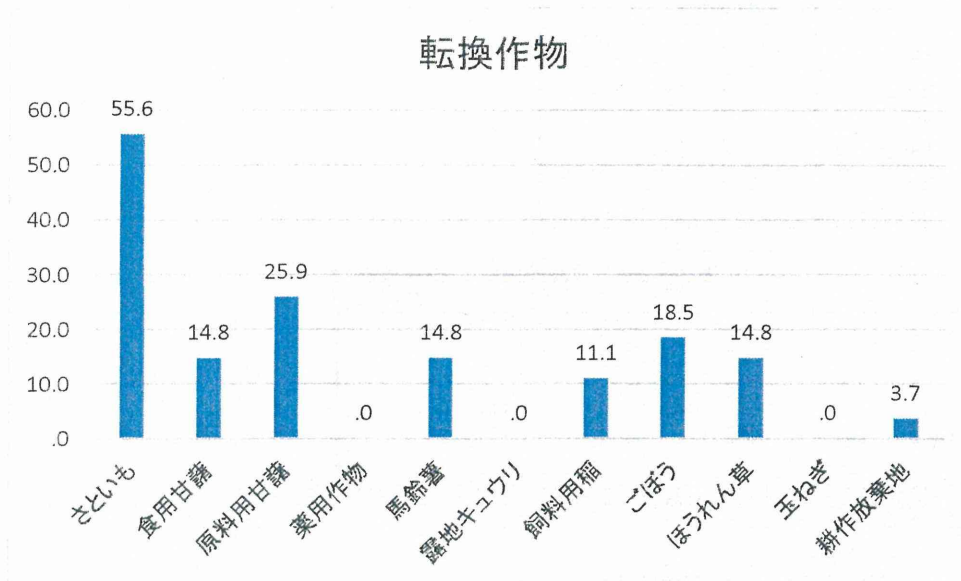
図9 葉たばこ耕作継続のための支援策



次に、廃作あるいは減反農家の転換作物について聞いたところ、図10に見られるように大半はさといも、そして焼酎などの原料用甘藷、ごぼうなどである。この市の主要作物を作付面積別にみると、ほうれん草、にんじん、だいこん（裏作中心）、さといも、ごぼうなどとなる。このことは、転用にあたって栽培技術を既に手中にしている作物であるとか、作付に必要な新規機械が不要な作物に転換する、あるいは地ものとして販売ルートが確立しているものを「合理的に」選択していると思われる。しかし、それがより高い付加価値を約束

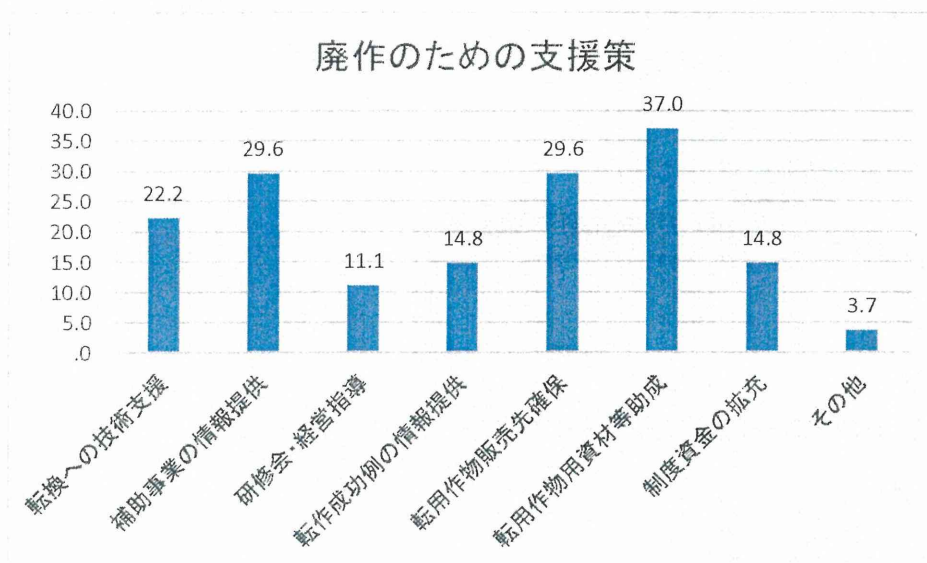
していることを意味しない。薬用作物などはゼロに近い。

図 10 廃作に伴う転換作物



耕作を継続している農家に対して、廃作や減反の選択を進めるためには「葉たばこより高い付加価値作物」が条件となる。廃作のための支援策がニーズとして浮かび上がってくる項目は「転用作物用資材等の助成」、「補助事業の情報提供」、「転用作物等の販売先確保」が主なもので、この3項目についての指導や助言そして助成制度の確立が、廃作や減反に誘導してゆく可能性が高い。

図 11 廃作のための支援策



また、平均耕作面積以下と平均より大の2グループでクロス分析を試みた。表5で確認できるように、廃作促進についての支援策は農家規模の大小にはよらないことに注目する必要がある。

表5 農地規模別の廃作のための支援策

クロス表

		転換必要技術		合計	
		0	1		
農地規模	1.00	度数	12	4	16
		農地規模の%	75.0%	25.0%	100.0%
	2.00	度数	9	2	11
		農地規模の%	81.8%	18.2%	100.0%
合計		度数	21	6	27
		農地規模の%	77.8%	22.2%	100.0%

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)	正確有意確率 (両側)	正確有意確率 (片側)
Pearsonのカイ2乗	.175 ^a	1	.675		
連続修正 ^b	.000	1	1.000		
尤度比	.178	1	.673		
Fisherの直接法				1.000	.528
線型と線型による連関	.169	1	.681		
有効なケースの数	27				

a. 2セル(50.0%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は2.44です。
b. 2x2表に対してのみ計算

リスク推定

	値	95%信頼区間	
		下限	上限
農地規模(1.00/2.00)のオッズ比	.667	.099	4.478
コーホート 転換必要技術=0に対して	.917	.616	1.363
コーホート 転換必要技術=1に対して	1.375	.303	6.248
有効なケースの数	27		

クロス表

		補助事業情報提供		合計	
		0	1		
農地規模	1.00	度数	11	5	16
		農地規模の%	68.8%	31.3%	100.0%
	2.00	度数	8	3	11
		農地規模の%	72.7%	27.3%	100.0%
合計		度数	19	8	27
		農地規模の%	70.4%	29.6%	100.0%

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)	正確有意確率 (両側)	正確有意確率 (片側)
Pearsonのカイ2乗	.049 ^a	1	.824		
連続修正 ^b	.000	1	1.000		
尤度比	.050	1	.824		
Fisherの直接法				1.000	.586
線型と線型による連関	.048	1	.827		
有効なケースの数	27				

a. 2セル(50.0%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は3.26です。
b. 2x2表に対してのみ計算

リスク推定

	値	95%信頼区間	
		下限	上限
農地規模(1.00/2.00)のオッズ比	.825	.151	4.500
コーホート 補助事業情報提供=0に対して	.945	.579	1.543
コーホート 補助事業情報提供=1に対して	1.146	.342	3.835
有効なケースの数	27		

クロス表

		経営指導		合計
		0	1	
農地規模 1.00	度数	13	3	16
	農地規模の%	81.3%	18.8%	100.0%
2.00	度数	11	0	11
	農地規模の%	100.0%	.0%	100.0%
合計	度数	24	3	27
	農地規模の%	88.9%	11.1%	100.0%

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)	正確有意確率 (両側)	正確有意確率 (片側)
Pearsonのカイ2乗	2.320 ^a	1	.128		
連続修正 ^b	.810	1	.368		
尤度比	3.394	1	.065		
Fisherの直接法				.248	.191
線型と線型による連関	2.234	1	.135		
有効なケースの数	27				

a. 2セル(.500%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は1.22です。
b. 2x2表に対してのみ計算

リスク推定

	値	95%信頼区間	
		下限	上限
コーホート 経営指導 = 0 に対して	.813	.642	1.028
有効なケースの数	27		

クロス表

		転作成功例情報		合計
		0	1	
農地規模 1.00	度数	13	3	16
	農地規模の%	81.3%	18.8%	100.0%
2.00	度数	10	1	11
	農地規模の%	90.9%	9.1%	100.0%
合計	度数	23	4	27
	農地規模の%	85.2%	14.8%	100.0%

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)	正確有意確率 (両側)	正確有意確率 (片側)
Pearsonのカイ2乗	.482 ^a	1	.488		
連続修正 ^b	.020	1	.886		
尤度比	.508	1	.476		
Fisherの直接法				.624	.455
線型と線型による連関	.464	1	.496		
有効なケースの数	27				

a. 2セル(.500%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は1.63です。
b. 2x2表に対してのみ計算

リスク推定

	値	95%信頼区間	
		下限	上限
農地規模 (1.00 / 2.00) の オッズ比	.433	.039	4.818
コーホート 転作成功例情 報 = 0 に対して	.894	.662	1.207
コーホート 転作成功例情 報 = 1 に対して	2.063	.245	17.338
有効なケースの数	27		

クロス表

			転用作物販売		合計
			0	1	
農地規模	1.00	度数	11	5	16
		農地規模の%	68.8%	31.3%	100.0%
	2.00	度数	8	3	11
		農地規模の%	72.7%	27.3%	100.0%
合計		度数	19	8	27
		農地規模の%	70.4%	29.6%	100.0%

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)	正確有意確率 (両側)	正確有意確率 (片側)
Pearsonのカイ2乗	.049 ^a	1	.824		
連続修正 ^b	.000	1	1.000		
尤度比	.050	1	.824		
Fisherの直接法				1.000	.586
線型と線型による連関	.048	1	.827		
有効なケースの数	27				

a. 2セル (50.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 3.26 です。

b. 2x2 表に対してのみ計算

リスク推定

	値	95% 信頼区間	
		下限	上限
農地規模 (1.00 / 2.00) のオッズ比	.825	.151	4.500
コーホート 転用作物販売 = 0 に対して	.945	.579	1.543
コーホート 転用作物販売 = 1 に対して	1.146	.342	3.835
有効なケースの数	27		

クロス表

			転用施設設備助成		合計
			0	1	
農地規模	1.00	度数	9	7	16
		農地規模の%	56.3%	43.8%	100.0%
	2.00	度数	8	3	11
		農地規模の%	72.7%	27.3%	100.0%
合計		度数	17	10	27
		農地規模の%	63.0%	37.0%	100.0%

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)	正確有意確率 (両側)	正確有意確率 (片側)
Pearsonのカイ2乗	.759 ^a	1	.384		
連続修正 ^b	.217	1	.641		
尤度比	.773	1	.379		
Fisherの直接法				.448	.324
線型と線型による連関	.731	1	.393		
有効なケースの数	27				

a. 1セル (25.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 4.07 です。

b. 2x2 表に対してのみ計算

リスク推定

	値	95% 信頼区間	
		下限	上限
農地規模 (1.00 / 2.00) のオッズ比	.482	.092	2.521
コーホート 転用施設設備助成 = 0 に対して	.773	.440	1.359
コーホート 転用施設設備助成 = 1 に対して	1.604	.527	4.885
有効なケースの数	27		

クロス表

		制度資金拡充		合計
		0	1	
農地規模 1.00	度数	13	3	16
	農地規模の%	81.3%	18.8%	100.0%
2.00	度数	10	1	11
	農地規模の%	90.9%	9.1%	100.0%
合計	度数	23	4	27
	農地規模の%	85.2%	14.8%	100.0%

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)	正確有意確率 (両側)	正確有意確率 (片側)
Pearsonのカイ2乗	.482 ^a	1	.488		
連続修正 ^b	.020	1	.886		
尤度比	.508	1	.476		
Fisherの直接法				.624	.455
線型と線型による連関 有効なケースの数	.464 27	1	.496		

a. 2セル(50.0%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は1.63です。
b. 2x2表に対してのみ計算

リスク推定

	値	95%信頼区間	
		下限	上限
農地規模(1.00/2.00)の オッズ比	.433	.039	4.818
コーホート 制度資金拡充 =0に対して	.894	.662	1.207
コーホート 制度資金拡充 =1に対して	2.063	.245	17.338
有効なケースの数	27		

D. 考察

宮崎県 A 市の葉たばこ耕作の契約農家のアンケート調査を行った。耕作継続以降は「葉タバコ買い入れ価格」の上昇による安定収入の確保が今後も望めるかにかかっている。また、廃作には奨励金のみでは不十分で、転作する際の種々の不確実性（転作に際しての追加的費用、転作作物の販売先の見込み）を少しでも払拭する手立てが必要であることがわかった。宮崎県全体では廃作希望農家は 55%にのぼる。その主な理由は「将来展望が開けない」が 76%、「廃作奨励金が支払われる」が 44%、「高齢のため」が 21%だった。同じく廃作にあたっての支援として「転作作物の技術支援」が 55%、「補助事業等の情報支援」が 50%、「経営指導」が 23%という結果がでている。

E. 結論

このアンケートを通じて、転作奨励策が葉たばこ買い入れ価格によって左右されることが統計分析によって明らかになった。この分析結果の直接的検証に向けて、回答いただいた農家への直接ヒアリングを行うことで、もっと実態に即した情報が獲得できる。また、自由解答欄がほとんど埋まらなかったことも、直接のヒアリングの必要性を感じた。と同時に、未回答の農家 25 戸にも直接接する機会を得たい。アンケート調査という表面的な調査手法を補完するためにも、直接観察が必要と考える。

参考資料

宮崎県 A 市内の葉たばこの生産をしておられる農家の皆さん

宮崎県 A 市内の葉たばこの生産をやめられた農家の皆さん

^

葉たばこ耕作継続に関する意識調査へのご協力をお願い

全国で葉たばこ耕作を継続する農家さんが年々減少しております。平均買入れ価格が23年答申で1869円/kgから24年答申で1890円/kgと前年比で1%上昇にもかかわらず、全国の耕作面積は前年比で66%に減少しております。それだけ廃作傾向が強くなってきております。

国内でのたばこ消費が年々減少していることから「葉たばこの将来展望が開けない」とか、「廃作奨励金が今なら支払われる」や「耕作者の高齢化」などが主な理由としてあげられております。

他方で、廃作後の耕作地の転用等に関して経済的支援、技術的支援を含めてどのような支援策が必要かといった、環境激変回避の行政措置の必要性も高まっております。

以上の状況を踏まえ、宮崎県 A 市「平成23年度契約」葉たばこ農家の皆さん（平成24年度廃作の農家さんも含む）に、

① 葉たばこ耕作の継続と廃作の選択を左右する要因、

その場合の

② 行政的支援のありかた等について

率直なご意見をお聞かせいただきたく存じます。

なお、この調査にお答えいただくに際して個人情報として重要な項目は一切外部には出しません。また調査者本人も「匿名性」を最優先し、皆様の回答とご本人とが一致することがないようにいたします。ぜひ、事実のみをお答えください。

この調査は私が専門としております産業政策と地域政策の観点から、学術研究上の基礎データとして活用いたします。また、得られた調査分析および研究として論文にまとめられます。

以上をご勘案の上、調査にご協力をいただきたくここにお願い申し上げます。

中央大学大学院公共政策研究科
教授 細野助博

〒192-0339 東京都八王子市東中野742-1
中央大学総合政策学部棟5階 細野助博研究室
TEL 042-674-4140
hosono@fps.chuo-u.ac.jp

調査票

(ご質問)

皆さんのことをお教えてください。

1. あなたは何歳ですか?.....() 歳
あなたは何代目ですか?.....() 代目
主たる働き手はあなたをのぞき何人?.....(あなたの他に 人)
後継者はいらっしゃいますか?.....(いる、いない)
2. 耕作面積は全部でどれほどですか?.....(a)
3. うち、葉たばこ耕作面積は?.....(a)
4. うち、葉たばこ廃作面積は?.....(a)
5. うち、水田面積は?.....(a)
6. うち、葉たばこを除く畑作面積は.....(a)
7. 果樹栽培は、何を栽培?.....()
8. 畜産等は?鶏 (羽)
豚 (頭)
牛 (頭)

B. 葉たばこ耕作について教えてください。

1. 葉たばこ耕作の意向で当てはまるものに、ひとつだけ○をつけてください。
 - a 葉たばこ耕作を今後も続ける
 - b 葉たばこ耕作は続けるが一部減反する
 - c 葉たばこは完全に廃作した

2. その理由は何ですか？当てはまるものは、いくつでも〇をつけてください。

- a 安定した収入が得られるから
- b 廃作奨励金がもらえたから
- c 後継者がいないから
- d 歳をとって作業がきつくなったから
- e 仲間が廃作したから
- f その他（具体的に

3. 葉たばこを減反あるいは廃作した農家の方々にお聞きします。

減反あるいは廃作した耕作地はどうされていますか？

転換に該当する作物名などに、いくつでも〇をつけてください。

- a さといも b 食用かんしょ c 原料用かんしょ d 薬用作物
- e 馬鈴薯 f 露地キュウリ g 飼料用稲 h ごぼう i ほうれんそう
- j たまねぎ k 耕作放棄地
- l その他（具体的に

<ウラ面もございます>

4. 葉たばこ耕作を継続しておられる農家の方々にお聞きします。

葉たばこ耕作を継続するために、どのような支援を望みますか？

- a 災害援助金の割増
- b 品質収量安定化のための現物支援
- c 使用頻度の高い機械等の更新への助成
- d 共同利用施設の更新
- e 買入れ価格の上昇

最も重要な支援は・・・ひとつだけ〇 (a. b. c. d. e)

2番目に重要な支援は・・・ひとつだけ〇 (a. b. c. d. e)

5. 葉たばこ耕作を継続しておられる農家の方々にお聞きします。

葉たばこ耕作を減反あるいは廃作する場合は、

どのような支援を望みますか？いくつでも〇をつけてください。

- a 転換に必要な技術支援
- b 補助事業の情報提供
- c 研修会や経営指導
- d 転作成功例の情報提供
- e 転用作物の販売先確保

- f 転用作物用資材や機械・施設導入助成
- g 制度資金の拡充
- h その他（具体的に ）

ありがとうございました。最後にご意見があれば、なんでもお書きください。

ご意見：

ご多用中恐れ入りますが、返信用封筒（あて先：中央大学 細野研究室）に記入がお済みになったこの調査票（1枚）を封入りし、今月の 2月13日（水）までにポストに投函してくださるようお願いいたします。

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
細野助博	ガバナンスの復権とボトムアップ型政策形成	細野助博	新たなローカルガバナンスを求めて	中央大学出版部		2013	9-30
細野助博	ローカルシステムの空間構造	細野助博	新たなローカルガバナンスを求めて	中央大学出版部		2013	31-57
細野助博	ローカルガバナンスを支える条件	細野助博	新たなローカルガバナンスを求めて	中央大学出版部		2013	59-86
細野助博	フォーマルアプローチを超えて？—日本における政策分析およびその活用の可能性をさぐる	足立幸男	日本における政策分析—その現状と課題—			2013	22-30

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
望月友美子	【喫煙と健康障害—禁煙支援の理解・普及から「脱タバコ社会」を目指して—】タバコ規制の国際潮流と脱タバコ世代の育成	日本臨床	71(3)	533-539	2013
尾崎米厚, 福島哲仁, 大井田隆, 神田秀幸, 谷畑健生, 望月友美子	2010年のタバコ値上げ後のわが国の成人の喫煙行動の変化	日本公衆衛生学会総会抄録集	71	302	2012
埴岡隆, 小島美樹, 望月友美子	たばこ対策への歯科保健医療従事者の参画 系統的文献レビュー	日本公衆衛生学会抄録集	71	295	2012
望月友美子	次世代を守るタバコフリー社会の構築に向けて 科学と政策と市民の協働	日本癌治療学会誌	47(3)	537	2012
埴岡隆, 花田信弘, 青山旬, 稲葉大輔, 小川祐司, 尾崎哲則, 小島美樹, 川口陽子, 小林清吾, 千葉逸朗, 平田幸夫, 柴原孝彦, 森田学, 伊東隆利, 望月友美子, 一般社団法人日本口腔衛生学会禁煙推進委員会	歯科における禁煙診療の標準化と教育・研修モデル	日本歯科医師会雑誌	65(5)	652	2012

望月友美子 (国立がん研究センターがん対策情報センター), 原田正平, 北井暁子, 安達順一, 中村明夫, 北川知行	Tobacco Free Women.TV ソーシャルメディアを活用した女性のたばこ問題解決のための情報共有プラットフォームの形成と今後の展望	日本禁煙学会 学術総会プログラム・抄録集	6	113	2012
鈴木朋子, 中村正和, 他	自治体レベルにおけるたばこ規制・対策の実態把握の試み	日本公衆衛生 雑誌	59(12)	879-888	2012
中村正和	特集 健康増進計画の評価と「その次」次期計画に向けて何を重視すべきか たばこ対策の推進をめざして	保健師ジャーナル	68(6)	474-481	2012
中村正和	特集 健康日本 21(第2次)と社会環境の整備 たばこ規制・対策と環境整備	保健の科学	54(10)	672-677	2012
大井田隆, 鷺見学, 足立光平, 中村正和	座談会 成人の喫煙率 12%を目指して	日本医師会雑誌	141(9)	1897-1909	2012
Tanihata T, Kanda H, Osaki Y, Ohida T, Minowa M, Wada K, Suzuki K, Hayashi K	Unhealthy Lifestyle, Poor Mental Health, and Its Correlation Among Adolescents: A Nationwide Cross-Sectional Survey	Asia Pac J Public Health			2012
Osaki Y, Ohida T, Kanda H, Kaneita Y, Kishimoto T	Mobile phone use does not discourage adolescent smoking in Japan	Asian Pac J Cancer Prev	13(3)	1011-4	2012
Osaki Y, Taniguchi S, Tahara A, Okamoto M, Kishimoto T	Metabolic syndrome and incidence of liver and breast cancers in Japan	Cancer Epidemiol	36(2)	141-7	2012
Hosoda T, Osaki Y, Okamoto H, Wada T, Otani S, Mu H, Yokoyama Y, Okamoto M, Kurozawa Y	Evaluation of relationships among occupational stress, alcohol dependence and other factors in male personnel in a Japanese local fire fighting organization	Yonago Acta medica	55	63-8	2012
Kawajiri T, Osaki Y, Kishimoto T	Association of gene polymorphism of the fat mass and obesity associated gene with metabolic syndrome: a retrospective cohort study in Japanese workers	Yonago Acta medica	55	29-40	2012
尾崎米厚	地震災害時および災害後の健康被害について 阪神淡路大震災を例にとって	厚生指標	59(11)	30-5	2012